



しじゅうから

福島市小鳥の森通信 2016年12月号 No.373

小鳥の森で観察してみよう 62

エナガ

分類

◎エナガ科

大きさ

◎14cm (長い尾羽を含む)

生態

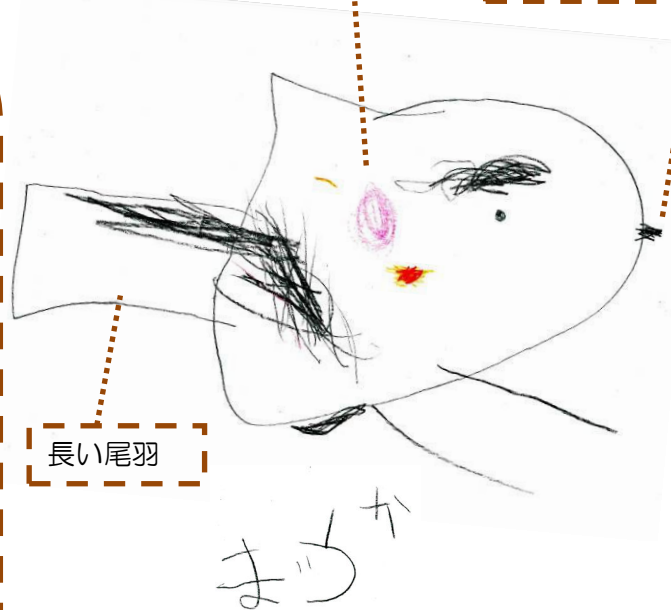
◎平地や山地の林に生育する

◎シジュウカラやヤマガラなど他の野鳥と混ざって行動することもある

◎子育てをしていない時期は、木の枝に体を寄せ合って集団で眠る

肩の羽の一部がピンク色

短いくちばし



長い尾羽

今回の絵は、もりや まどかさんが描いてくれました。



12月の自然予報



12月になると木々が葉を落とし、森の中でも遠くまで見通せるようになります。

見通しが良くなると、野鳥を見つけるのも簡単になるので、初めて野鳥を見る方には、冬がおすすめです。

さて、冬のこの時期、あえて樹木に注目したいと思います。葉を落とした木々たちをよく観察してみると、冬芽と呼ばれる来年の芽をつけていたり、葉痕と呼ばれる葉っぱのついてた痕が見られたりします。

葉がない季節は、冬芽や葉痕によって木の種類を見分けることができます。

12月は雪が本格的に降ることも少ないので、トチノキのベタベタした冬芽や、ヒツジの顔のように見える葉痕を持つオニグルミなどこの時期ならではの樹木観察がおすすめです。



トチノキ



オニグルミ



11月の自然



11月は、小鳥の森を訪れはじめた色々な冬鳥を観察することができました。

ネイチャーセンターの周りでは胸から尾まできれいなオレンジ色をしたジョウビタキが縄張りを作り、冬を越す準備をしていました。

あわ畑では数十羽の群れを作ったカシラダカが、名前の元になった冠羽を時々立たせ、跳ね歩きながらこぼれた「あわ」をついばんでいました。

林に囲まれた自由広場では、ツグミが地面に落ちた葉を「かるた遊び」のように一枚一枚めくり、虫を探し出す様子も見られました。

その他にもオオバヤシャブシをついばむアトリ、またウソやシロハラなどが、この冬に初めて観察されました。



ジョウビタキ



カシラダカ

小鳥の森スタッフだより

猿鳥いばら？

今年の干支の申（さる）と来年の干支の酉（とり）がならんだ名前の植物が小鳥の森にあるのを知っていますか？ その名も「サルトリイバラ」！



林の中で地面を這うように伸びる茎には、所々にトゲ（いばら）が生えています。名前はこのトゲに猿（さる）が捕まってしまうことから付けられました。

秋になると鳥たちが喜んで食べる7mmぐらいの赤い実をつけます。華やかなクリスマスリースやおめでたいお正月の飾りに使われることもあります。

この様なおもしろい名前の植物があることを頭の片隅に置いて、ゆく年来る年を過ごしていただけたらと思います。



（スタッフ 黒沢さちこ）

出前講座のご案内

当施設では、福島市内の学校や学習センターなど様々な団体向けに出前講座を実施しています。

自然素材を用いた工作や森のお話など色々な講座メニューを用意しております。季節や人数、活動時間に合わせてプログラムを組み合わせたり、調整したりすることもできます。（クラフトの材料等は放射線量の低い地域や県外からの寄付で頂いたものを使用しています。）

受付は先着順に行っていますので、希望日の2週間前までに電話か FAX にて申し込みください。

（※既に希望の日程に予約が入っている場合は対応できない事もありますのでご了承下さい）

出前講座の様子



※福島市小鳥の森では色々なイベントを開催しています。

詳しくはネイチャーセンターまでお気軽にお問い合わせ下さい。

*小鳥の森ホームページで小鳥の森スタッフが独自に測定した環境放射線量を公開しています。

福島市小鳥の森（ネイチャーセンター） 開館時間：午前8時30分～午後5時
《入場無料》 休館日：毎週月曜日（祝祭日の時はその翌日）

〒960-8202 福島市山口字宮脇 98 Tel：024-531-8411 fax：024-534-8800

小鳥の森のホームページ・・・<http://www.f.kotorinomori.org/>

小鳥の森通信「しじゅうから」2016年12月号No.373/企画・発行：福島市小鳥の森/日本野鳥の会ふくしま